

(別紙4)

評価結果報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2970102063
法人名	株式会社 まごころ福祉
事業所名	グループホーム まごころ
訪問調査日	平成 21 年 3 月 18 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人カロア

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけています。
- 「取り組みを期待したい内容」欄は、「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

平成 21 年 3 月 18 日

【評価実施概要】

事業所番号	2970102063
法人名	株式会社 まごころ福祉
事業所名	グループホーム まごころ
所在地	奈良県 朱雀6丁目6-8 (電話) 0742-71-2939

評価機関名	特定非営利活動法人カロア		
所在地	大阪市大阪市天王寺区堀越町1番1号四天王寺堀越ビル		
訪問調査日	平成21年3月18日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】 (21 年 3 月 2 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	9 人	常勤 4 人	非常勤 5 人 常勤換算 6.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	62,500 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有 (円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 有 (20万 円)	有りの場合 償却の有無	○ 有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	800 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (3 月 18 日現在)

利用者人数	5 名	男性	名	女性	5 名
要介護1	1	要介護2		1	
要介護3	2	要介護4		1	
要介護5	0	要支援2		0	
年齢	平均 90 歳	最低 73 歳		最高 98 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まえだ医院、畑下歯科医院、高の原中央病院
---------	----------------------

要 表

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

落ち着いた環境の中の住宅地の中にあり、近くには幼稚園や小学校があります。法人の代表者の自宅を改装して開所され、ご近所とのつながりや事業所への理解は大変深く、継続されています。玄関前には季節毎に楽しめる木々や草花が植えられ、安らぎが感じられます。玄関のドアは開けられたままで、日差しが差し込み明るく温かみを感じられました。家庭的な雰囲気を大切にされ、職員は私服で対応されており、優しく話しかけられ、大切な家族の一員としてお一人お一人を理解しようという気持ちが伝わってきました。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「運営推進会議を活かした取り組み」について今後も継続して会議を開催して行こうとされており、終末期ケアの指針を作成され、その取り組みについての理解を深められた様子です。「災害対策」については、年3回避難訓練を実施されており、備蓄品も揃えておられます。前回の課題をしっかりと検討し改善されています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホームのより良い運営の為に自己評価、外部評価を活かして職員の質を高めていこうと、積極的に取り組まれています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を実施され、出席率も良く、少しずつ身のある内容になってきているようです。管理者も今後もこの状態を継続したいと取り組まれています。終末期ケアについての取り組みも理解がすすんでいる様子です。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>定期的に家族には手紙を送付され、ホーム便りの発行により、ホームでの暮らしぶりを伝えていきます。また、大きな行事には家族会を開き、そこで様々な情報のやり取りもなされています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームが出来たときから、近隣の方々とお付き合いが続いており、地域活動への参加をはじめ、積極的に取り組まれています。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ユニット内に掲示され、パンフレットへの記載もされています。理念作成においては管理者が重要事項説明書に書かれてある内容を工夫して伝えやすい言葉にしています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい職員への理念の周知について管理者の意欲的な取り組みにより、理解が得られています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが出来たときから、近隣の方々との付き合いが続いており、地域活動への参加をはじめ、積極的に取り組まれています。	○	ボランティアとの協力関係を結べたらとお考えのようです。しかしながら地域にホームへの協力をしていただけるボランティアが少ないのが現状の様子です。逆ボランティア活動等による地域への還元を始め、つながりを持ちたいと考えておられるようなので、今後の取り組みに期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価について、課題のある部分についてしっかりと話し合いを持たれ、改善されている様子が見えます。		

(結果)

外部評価	自己評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を実施され、出席率も良く、少しずつ身のある内容になってきているようです。管理者も今後もこの状態を継続したいと取り組まれています。終末期ケアについての取り組みも理解がすすんでいる様子です。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との連絡は直接あって対応され、管理者の積極的な姿勢がうかがえます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に家族には手紙を送付され、ホーム便りの発行により、ホームでの暮らしぶりを伝えていきます。また、大きな行事には家族会を開き、そこで様々な情報のやり取りもなされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族会代表者が出席され、意見を反映させる仕組みを作っています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が辞めるということは少ない様子で、むしろ、重度化に伴い職員数を増やして対応しているようです。職員の変更についてはお知らせにより伝えていくことを検討されています。		

外部 評価	自己 評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は新しい職員を育てたいという意気込みをもたれています。また、職員も自発的に外部の研修に出席するなど意欲を持って取り組まれています。	○	内部研修は伝達研修をされているようですが、キャリア年数にあわせ、年度の研修計画を立ててみてはいかがでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回の地域交流を行う時に近隣の同業者に参加を呼びかけておられる様子です。また、運営推進会議にも出席していただいている様子がうかがえます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約書上特に取り決めてはいませんが、2週間くらいの体験入所が可能です。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の出来る範囲を十分に検討され、会議等でも話し合いされた上で、それぞれの役割を作り支えあう関係を築いておられます。		

外部 評価	自己 評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議や家族会、日々の取り組みの中において意向の把握につとめられ、勉強会を通して、関わり方や考え方について共有されています。	○	十分に把握され対応されている様子が見えませんが、なぜ、そのようなケアを行うのかという根拠付けの部分でのアセスメント記録や会議録が不十分であると思われます。今後の取り組みとして改善されていくことを期待いたします。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	医師からの意見照会や、家族、担当スタッフとの話し合いや、個別にまとめた対応への記録などから、個別対応における介護計画が作られている様子が見えます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを頻繁に行われており、行事のときや家族がホームに訪問されたときなどに話し合いがなされています。また、常々から医師との連携により、身体状況の把握につとめておられます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能性を生かすためにデイやショートステイを考えられたようですが、今のところ対応は難しいようです。しかし、入居時のお試し利用や、通院介助など受診のフォローなど支援されています。		

外部 評価	自己 評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族にとって一番希望する状況で選んでいただいています。往診による診察も可能です。緊急時には近隣の病院とも連携を取り、受診することも可能です。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアにおいて指針を作成され、ホームで出来ること出来ないことを明確にされています。	○	指針を作成されており、ご家族にも説明はされている様子です。さらによくするためには、いつ説明され、同意を得たのかを明確にされてみてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	スタッフの対応により一人ひとりのプライバシーを尊重した取り組みがなされている様子がうかがえます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの一日の流れと留意点をまとめたもので周知する取り組みがなされています。		

外部 評価	自己 評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム開設当初に比べ、重度化がすすんできている様子です。以前出来ていた食事の準備であったり、調理の部分が十分にできない入居者も増えてきたことから、現在出来る範囲での取り組みを管理者、スタッフが一丸となって取り組んでおられます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は隔日入浴となっていますが、毎日入浴を希望される方も対応は可能です。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの好みやこだわりに合わせて、外出や日常生活の中での役割作りがなされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームに訪問させていただいたときに、朝から近隣を散歩され、かえって来られている様子をお見受けしました。日常的に散歩が日課となっている人がいるようで、外を歩くときは車椅子が必要となる方も増えていますが、職員が付き添い対応されています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前はホーム内でも利用者によって外に一人で出て行かれる方もおられた様子ですが、徐々に暮らしに慣れてきて、今ではそういう方もおられない様子です。また、スタッフの言葉かけも適切に行われています。		

外部評価	自己評価	項目 (※下線数字は重点項目)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を想定し、年3回実施されています。また、地域での災害時の避難場所についても家族とも話をされています。非常時の非常食はもちろん、物品もそろえていっておられる様子です。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量の把握がなされており、食事形態における工夫も十分になされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	もともと民家であった特徴を活かし、普通の家庭の中にあるような環境づくりがなされています。立地も良く、リビングや各部屋の明るさが適度に調整され、過ごしやすい様子が見えます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が広く、個人の物を持ち込むには十分といえます。掃除も行き届いており、それぞれ好みのものを持ち込まれて、生活に潤いが見え、たれている様子が見えます。		